

# News Letter

2017年9月  
vol.22

- 目次
- 動物咬傷(刺傷)の豆知識
  - 神経科便り
  - 保健指導便り
  - 健康管理部門からのお知らせ
  - 保健診療所について

撮影 松崎 慶一



## 咬まれたら、刺されたら、どうする? ～動物咬傷(刺傷)の豆知識～

夏もそろそろ終わり、これからは秋の行楽シーズンですね。秋と言えばぶどう狩りや紅葉など、山へ出かける機会も増えてくるかと思えます。そんな時に注意したいのは虫や動物による咬傷(刺傷)です。楽しんでいた際に「痛っ!!」何かに咬まれた、刺された、パニック!今回は、そんな時に役立つとっさの対応、応急処置についてお伝えします。

### 虫や動物に咬まれた時にまずすることは…?

虫や動物に咬まれたり、刺されたりした場合、注意が必要なのは感染症です。一般的に動物は様々な細菌をもっており、適切な対応を取らなかった場合傷口から細菌が侵入して化膿し、破傷風など重篤な病気になるものもあります。中には体内に毒を有するものもあり、毒による作用はその動物によって様々なので、動物ごとの対応が必要になってきます。

どんな虫や動物でも、咬まれたり、刺されたりした場合の応急処置は共通です。慌てず、まず流水で10分以上傷口をきれいに洗い流してください。早期に行うことが重要で、感染症を引き起こす確率を大きく下げ、毒があるような場合でも毒の体内への侵入を防ぐことができます。

毒に対する対処法としては、近くに吸引用具(ポイズンリムーバー)が近くにあった場合は説明書に従って毒を吸い出してください。インターネット等では口で吸いだすのがよいというような記事もありますが、あまり効果はありません。ハチなど、毒針が残存している場合はピンセットなどで抜いた方がよいですが、無理はやめましょう。なお、毒を出すために傷口を広げる行為はさらに感染が広がる可能性がありますので、絶対にやめてください。

応急処置を行った後は、近くの医療機関を受診してください。その際、咬まれた・刺された虫や動物の特徴



を伝えてください。難しいかもしれませんが、写真などがあると治療の助けになります。

### クモ ～背中に赤い模様のあるクモに咬まれた!～

外来で「クモに咬まれた」という訴えの中でたまに見かけるのは、以前大阪で大量発生してニュースにもなったセアカゴケグモによる咬傷です。セアカゴケグモは強力な毒を持っていますが、量は少ないため健康な成人への影響は極めて小さいです。小児や高齢者・何らかの病気を持っている方の場合、局所症状として咬まれた部分が白くなり熱をもって硬化すること、全身症状として激しい筋肉痛を呈し腹痛を伴うことがあります。ほとんどの場合数時間～数日で症状はおさまりますが、局所症状だけでなく、全身症状を呈する様な場合は医療機関を受診するようにしましょう。この際も写真や実際咬まれたクモを持参いただくと、より診断に近づきます(セアカゴケグモの場合背中に特徴的な赤い模様があります)。

### ハチ ～ハチは別の症状にも注意!!～

ハチに刺された際は少し気を付けないといけないことがあります。それはアナフィラキシーです。アナフィラキシーとはアレルギー反応の一種



であり、過去にハチに刺されたことがあったり、初回でも複数回刺されることで起こります。症状としては蕁麻疹、顔面のむくみ、喉が腫れて呼吸困難や嘔声、腹痛、嘔吐、ショックと軽症から重症まであります。呼吸困難や嘔声といった症状が出現し始めると要注意です。救急車を呼んで速やかに救急医療機関を受診し適切な治療を受ける必要があります。命を落とす場合もあるのでおかしいなと思ったら119番です!

(内科医師・木口 雄之)

